



## 平成27年度 関東農政局 国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰

関東農政局では、国営土地改良事業地区等において、生産技術の向上と農業経営改善のための創意工夫を意欲的に行うことによって、他の模範となり、事業推進及び営農推進に著しく功績のあった方々を表彰しています。平成27年度は3者が関東農政局長賞を受賞され、平成27年12月10日にさいたま新都心合同庁舎で表彰式を開催しました。

表彰式の後、受賞関係者と農政局幹部による意見交換会を開催し、取組等について様々な意見交換が行われました。

氏名	国営事業地区名 (住所)	功績
農業生産法人 株式会社 ジーワン	芳賀台地 (栃木県益子町)	法人参入し農地集積と畑地かんがい営農を展開
JAこま野 落合支所 果実部会 果樹研究部	釜無川 (山梨県南アルプス市)	畑かんを利用したすもも栽培技術 確立とブランド化に貢献
有限会社 斉藤農園	安曇野 (長野県安曇野市)	消費者へ顔の見える農業の実践と 地域活性化に貢献

# 法人参入し農地集積と畑地かんがい営農を展開

「芳賀台地地区」では、安定的な農業用水の確保による生産性の向上と地域農業の振興を目的として、国営かんがい排水事業（昭和62年～平成14年度）が実施され基幹的な水利施設が整備されました。関連する県営事業により支線水路が完備された農地では、畑地かんがいによる戦略的な営農が定着しつつあり、今後のさらなる産地形成に期待が集まっています。



## 国営かんがい排水事業 「芳賀台地地区」

関係市町村：那須烏山市、  
益子町、茂木町  
市貝町、芳賀町

受益面積：2,750ha  
工 期：昭和62～平成14年度  
概 要：水田や畑に用水を安定的に供給するため頭首工、調整池、揚水機場、幹線水路等を整備しました。

## 株式会社 ジーワン

【栃木県益子町】



経営面積：24.0ha  
主要作物：キャベツ、レタス、にら、たまねぎ  
労働力：常時雇用10人、臨時雇用延べ15人

## 畑かんによる生産の安定と輪作体系の導入

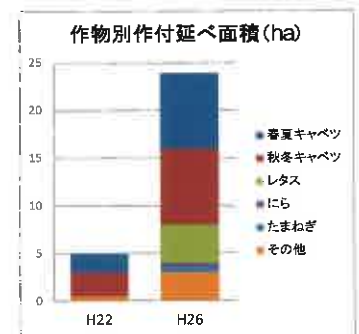
（株）ジーワン代表の吉岡氏は、後継者不足、耕作放棄地など農業が抱えている諸問題を解決したいとの思いから、会社員を経た後、業務用キャベツの生産を経営の柱とした農業生産法人を平成21年に立ち上げました。設立当初、天水に依存した栽培により、天候の影響を大きく受け生産が安定しませんでした。平成23年度に戦略作物基盤整備事業により畑かん施設を整備し6.9haのほ場に通水されたことで、天候に左右されない計画的な生産が可能となったことから収量と品質が安定しました。最近では、キャベツ、レタス、たまねぎによる輪作体系を取り入れ土地利用の合理化に取り組んでいます。



キャベツへのかん水

## 地域に溶け込む営農による農地集積

戦略作物基盤整備事業による畑かん施設整備を契機とした経営面積の拡大と同時に参入当初から地域に溶け込んだ営農を目指し、積極的に地域の行事に参加し住民との交流に努めてきました。この結果、地域からの信頼が得られ、農地管理をジーワンに任せたいとの声が多くなり、年々経営規模を拡大し、売り上げは右肩上がりに伸び、栃木県における法人の農業参入事例として、新たな経営モデルとなっています。



ジーワン経営面積推移

注意：H26年 24.0haの内、芳賀台地地区内は16.5ha

## 市場開拓による経営の安定化

ジーワンは、栃木県には大規模なキャベツ産地がなく、主産地に比べ価格が安いことなどから、市場出荷の他に新たな販路開拓を行いました。会社設立時は、業務用や流通業者などとの契約栽培から始め、その後畑かん施設を整備し、キャベツや加工トマト及びレタスの計画的な出荷が可能となったことから、加工野菜業者、飲食店や餃子専門店、学校給食など、県内外において新たな市場開拓を積極的に行い経営の安定化を図ってきました。



加工野菜業者への出荷



飲食店への出荷

## 多様な担い手の育成とPR活動

農業未経験者を社員として多く雇用していることから県外の優良農家に数ヶ月の経験を積ませる研修制度を導入し栽培技術の底上げを行っています。また、農業法人への就職支援やインターンシップ受け入れ活動や地元小学校での食育推進活動と障害者向けの就労支援活動による農業体験の場を提供するといった、多様な担い手の育成に尽力しています。さらに、芳賀台地用水を活用した先進的な畑地かんがい営農の試験（平成23～26年度）に積極的に取り組み、地元農業者へ畑かん用水を利用した栽培技術のPRに協力をするなど国営事業や畑かん営農の推進に貢献しています。



地元小学校での出前授業



栽培技術のPR

# 畑かんを利用したすもも栽培技術確立とブランド化に貢献

「釜無川地区」は扇状地が多く、以前は「月夜でも焼ける」と言われるほどの、干ばつ常習地帯でしたが国営かんがい排水事業（昭和40～49年度）により用水施設が整備され今日の良質米生産及びフルーツ王国山梨の主要産地となっています。



## 国営かんがい排水事業 「釜無川地区」

関係市町村：南アルプス市、  
韮崎市  
受益面積：3,336ha  
工期：昭和40～昭和49年度  
概要：水田や畑に用水を安定的に供給するため、頭首工、開水路、幹線用水路等を整備しました。現在は国営施設機能保全事業により施設の補修更新が進められています。

## J A こま野 落合支所 果実部会 果樹研究部

【山梨県  
南アルプス市】



経営面積：101 ha  
主要作物：すもも、ぶどう、もも  
労働力：構成員18人

## 果樹研究部の活動と すももブランドの確立

果樹研究部が所属するJAこま野落合支所果実部会は、昭和12年1月に中巨摩郡甲西町落合（現在の南アルプス市落合）において、すもも、ぶどう、ももの安定生産・品質向上を図るための栽培技術など研究に取り組むことを目的に発足しました。本地域のすもも栽培は天水に頼っていた時代には干ばつの被害に度々苦しんでいましたが、昭和40年度着工の国営事業を契機に用水の安定供給が行われたことと同研究部の活動により落合地区のすもも栽培が南アルプス市を生産量日本一の座に押し上げました。



樹園地のかん水

## 技術研究活動による栽培の安定と効率化

すももの特性である不安定な結実を解消するために研究部では受粉専用種を模索しつづけ、約30年前にハリウッド種を導入したことにより安定した結実が可能となりました。また、研究部の育成した代表的品種「貴陽」（H8年登録）は大玉で甘く食味が非常に優れており現在の主力品種となっています。H24年には「世界一重いすもも」（323.77g）としてギネスに登録されるなど注目を集めています。そのほか研究部では省力化対策にも力を入れており、裂果防止の傘紙を掛ける技術を開発し、さらに樹高が高いすももの人工授粉の作業効率を考え、ぶどう棚を活用した技術を普及しています。



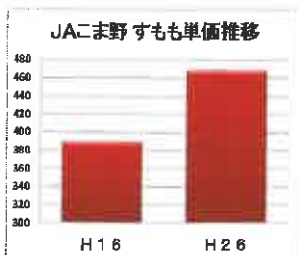
機械栽培



店頭にならぶすもも「貴陽」

## 市場開拓と専用選果場の整備による産地化

落合地区では昭和40年頃から全国に販路を拡大し、需要が増加したことで昭和50年代にはすもも専用共選場と保冷施設を落合支所に整備し、一大産地としての体制を整えました。研究部は取引市場や主産地の生産状況や販売計画について、JA内で頻りに情報交換を行い、流通・販売対策の戦略作りをしています。また、平成に入り研究部が主体となって高品質の貴陽を市場に送り出したところ、消費量がさらに増加し、すもも全体の単価が上がる結果となりました。



出典：JAこま野



落合地区の共選場

## 担い手育成に寄与

研究部の所属するJAこま野では担い手の経営安定化に取り組んでおり、果樹経営支援対策事業及び未収益期間支援事業を活用し、苗の3年間育苗管理を行うことでH19年からH26年度に6haの改植を行い、平成26年度に青年就農給付金を受けて新規就農を目指す者18名（内、県外7名、市外2名）の技術研修を行うなど、担い手の育成に寄与しています。



剪定技術講習会

# 消費者へ顔の見える農業の実践と地域活性化に貢献

「安曇野地区」は、豪雨が発生した際には各所で農業用水路があふれ農地や集落へ被害をもたらしていました。国営かんがい排水事業（平成7～17年度）により排水条件の抜本的な改善が図られました。さらに県営ほ場整備事業により区画整理や農道整備等が実施され、作業性とともに保水性が高まることにより飛躍的に農業生産性が向上し農業経営の安定化が進んでいます。



## 国営かんがい排水事業 「安曇野地区」

関係市町村：松本市、安曇野市  
 受益面積：6,200ha  
 工期：平成7～平成17年度  
 概要：農地の溢水・湛水被害を防ぐため、排水水門、排水路の整備を行いました。

## 有限会社 齊藤農園

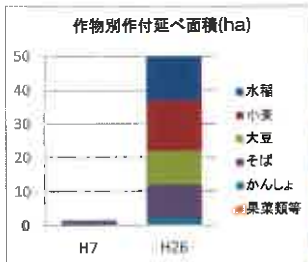
【長野県安曇野市】



経営面積：50.1ha  
 主要作物：水稻、小麦、そば、かんしょ、  
 水耕栽培トマト、メロン  
 労働力：自家4人、常時雇用3人、  
 臨時雇用延べ600人

### 事業を契機とした農地集積

本事業及びほ場整備により水稻、小麦、大豆、そば、かんしょ等の省力安定生産が可能となったことから、これを契機に本農園では高齢化や後継者不在等により作付意欲が減退した農地を引き受け、農地集積を進めた結果、平成7年には2haであった経営面積を現在50ha超まで拡大しました。そのほか田植え7ha、稲刈り10ha、米乾燥・調整180tを受託するまでになり、地域の農業の担い手として活躍しています。



齊藤農園経営面積推移



整備されたほ場

### 消費者とのきずな作る6次産業化

消費者とのきずなを大事にすることを目的に、農家レストラン&コミュニティショップ「あぐりす」を営業し、自家栽培の原料による手打ちそばや特別栽培米の販売をしています。「あぐりす」はインターネットにより齊藤農園の営農状況、周辺の自然環境の様子を情報発信しており、“顔の見える農業”を実践しています。そのほか販路拡大も積極的に取り組み、かんしょはコンビニ用スイーツの原料として出荷するなど、積極的市場開拓と6次産業化の先端をいく農業経営は地域のモデル的存在となっています。



あぐりす



栽培から全て自家製のもりそば

### 省力化による経営の合理化

農業機械の効率的利用と新技術の導入を積極的に進め生産コストを低減させる取り組みを実施しています。水稻のカルパー粉（酸素発生剤粉コーティング方式）による直播栽培を一部実施するとともに、施肥作業の省力化技術を導入し労力の合理化と平準化を図っています。また、関連事業であるほ場整備事業に関し、大区画化と地形上の制約により、大きくなった畦畔の法面中段に、管理用の小段を設置することを提案し、法面における除草作業の足場を確保し高効率化を実現させています。



水稻乾田直播



改良された畦畔

### 地域発プロジェクトの中心で活躍

地域の発展とコミュニティの活力を維持したいとの思いから一線を退いた農家を繁忙期に雇用することで人のつながりの場を提供してきました。また、農業体験教室の開催、国内外からの農業研修生の受け入れ、米のオーナー制度等も取り組んでいます。さらには安曇野市の大規模稲作農家が連携し、販売戦略や生産技術を研究する組織「安曇野.come(ドットコメ)」(構成員6名)を本農園が中心となって設立し、様々な機会に活動の情報発信や、長野県が育成した米品種「風さやか」の試験栽培に安曇野市農業再生協議会と共に取り組むなど地域発の各種プロジェクトの中心人物として活躍しています。



.comeによるイベント活動

## 優良経営体事例の紹介

今回は渡良瀬川中央地区で、整備された農業基盤をいかして活躍されている方々を紹介します。

### 渡良瀬川中央地区

関係市町村：桐生市、太田市、館林市、みどり市  
板倉町、大泉町、邑楽町  
足利市、栃木市（栃木県）

受益面積：9,400ha

工期：平成12～平成22年度

概要：農地の溢水・湛水被害を防ぐため、排水機場の改修、排水路の拡幅や新設、遊水池の設置を行いました。



「渡良瀬川中央地区」は、急激な都市化や流域開発に伴う排水量の増加等により度々溢水・洪水被害が発生し農業生産の阻害要因となっていました。国営総合農地防災事業によって排水対策が行われ、露地野菜が安定的に作付けできるようになりました。

### 露地野菜の導入と機械化による大規模野菜経営の確立 ～町田 正行 氏～

事業による排水対策により畑地の湛水被害が減ったことで、露地野菜が安定的に作付けできるようになったことにより、新たに露地野菜（えだまめ）を導入し規模拡大を進めました。また、施設野菜では、夏場の高温により栽培が不安定であった夏作ほうれんそうをこまつなに切り替え、経営の安定を図りました。

平成19年

基幹作物：施設（小玉すいか、ほうれんそう）

経営面積：2.0 ha

平成26年

基幹作物：施設（ほうれんそう、こまつな）  
露地（えだまめ、ほうれんそう）

経営面積：15.1ha



ビニールハウス  
（こまつなの栽培）



えだまめの出荷調整作業

詳しくは：[http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/pdf/27\\_kantou\\_03.pdf](http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/pdf/27_kantou_03.pdf)

## 事業を契機とした大規模野菜経営の確立と地域雇用への尽力 ～木村 正道 氏～

事業による排水対策により畑地の湛水被害が減ったことから、大型機械等の導入により規模拡大し、常時雇用10名の他、臨時雇用数名を雇う大規模な経営へ移行しました。周年雇用を確保するための作付計画と高齢化した従業員の健康面を考えた品目の導入など経営者として従業員から厚い信頼を得ています。

平成11年

基幹作物：かんしょ（苗用種芋）、ごぼう  
だいこん、ほうれんそう

経営面積：4.3 ha

労働力：4人（S60年時点）

平成26年

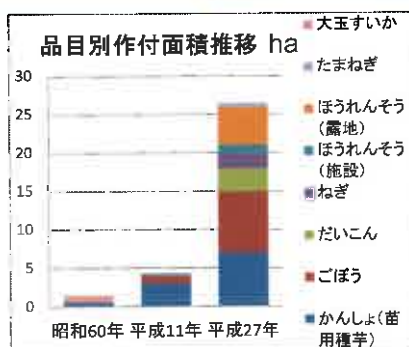
基幹作物：かんしょ（苗用種芋）、ごぼう  
ねぎ、その他野菜類

経営面積：26.5ha

労働力：5人、常勤パート10人



木村氏夫妻



ねぎ作付状況

詳しくは：[http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/pdf/27\\_kantou\\_05.pdf](http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/pdf/27_kantou_05.pdf)

## 足腰の強い環境にやさしい資源循環型畜産経営の取り組み ～小澤 康弘 氏～

当初、経営の柱を肥育牛にすえ、牛舎を増築するなど頭数の拡大を優先し、250頭規模まで拡大しました。平成13年以降、牛肉の輸入自由化・BSE発生・排泄物対策等による販売価格の低迷やコストの増大による収益性の悪化に直面しましたが、米麦・飼料作物・露地野菜を組み合わせた有畜複合経営による資源循環型農業に取り組み、環境負荷の低減を図るとともに収益性の向上も実現しています。

平成7年

基幹作物：水稻、麦、はくさい

経営面積：12.0 ha

飼養頭数：肥育牛250頭

平成27年

基幹作物：水稻、麦、飼料用とうもろこし、  
はくさい

経営面積：23.2ha

飼養頭数：肥育牛222頭



小澤氏



小澤ブレンド（独自配合飼料）  
を食べる牛



麦の収穫

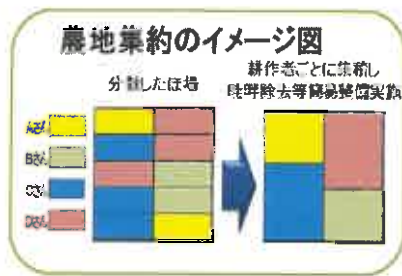
詳しくは：[http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/pdf/27\\_kantou\\_02.pdf](http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/pdf/27_kantou_02.pdf)

## 農地利用を集落の担い手が話し合い大区画化を実現 ～金子 憲市 氏～

当氏は耕作意欲が減退した小規模農家から農地を任せられ規模拡大を進めていましたが、農家相対で話をするため、ほ場が分散化し、集積によるメリットがいかしきれませんでした（他の担い手も同様な悩みを抱えていました）。そこで、平成26年度に行政とJAが連携し、問題を解決するための組織「足次地区農地利用推進委員会」が設立され、これにより農地集約が促進されました。

平成13年  
基幹作物：きゅうり（施設）、水稻、大麦  
経営面積：8.75 ha

現 行：平成26年  
基幹作物：きゅうり（施設）、水稻、大麦  
経営面積：17.75ha



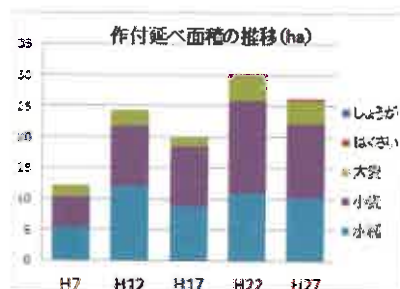
詳しくは：[http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/pdf/27\\_kantou\\_01.pdf](http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/pdf/27_kantou_01.pdf)

## 個人経営による規模拡大及び借地を集約した取組 ～麦倉 勝三氏～

事業により乾田化が図られ大型機械の導入が可能となる中、地域では高齢化と後継者不足のため農地の出し手が多く存在していたこともあり、これらの農地を借り受け規模拡大を進めました。一方で、ほ場が分散化し、農地の集約も課題となっていました。担い手同士で調整することで農地を集約し、機械等の作業性を向上させるなど一層の省力化に努めています。

平成11年  
基幹作物：水稻、小麦、六条大麦、野菜  
経営面積：12.3 ha

平成27年  
基幹作物：水稻、小麦、二条大麦、野菜  
経営面積：26.2ha



地区内大型コンバインによる麦刈り

詳しくは：[http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/pdf/27\\_kantou\\_04.pdf](http://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/pdf/27_kantou_04.pdf)

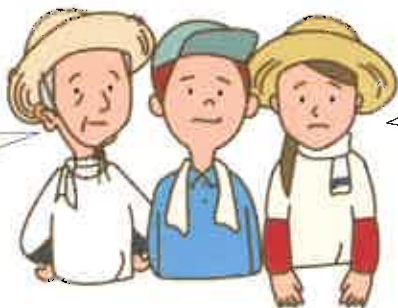


## 逆引き事典 2

補助金 融資 事例等

『逆引き辞典』で必要な情報を探そう  
 農林水産省トップページ右側にあるバーナーをクリック！

個人、法人  
 土地改良区  
 営農組織 等が



荒廃農地を解消したい  
 地域資源の保全活動をしたい  
 地域を活性化したい 等

「誰が」、「何をしたい」を選択していくと、

逆引き事典



事業名	公募時期	概要	補助率	対象者	その他の要件
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...

あの県のある件について良い事例は？



補助事業や資金は概要や公募時期など関係する情報を並べて比べられます。事業名をクリックすると、事業の詳細な情報が見られます。

優良事例の検索では、取組内容と一緒に都道府県も選択できます。

<https://www.gyakubiki.maff.go.jp/>

【編集発行】  
 関東農政局国営土地改良事業地区 営農対策委員会事務局 農村振興部農村環境課  
 〒330-9722 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館  
 TEL 048-740-0510 (ダイヤルイン) FAX 048-740-0082